

7 「活用の方向性と方法」についての検討素案

1 方向性

- (1) 仙台城跡の現況遺構は安全に配慮したうえで公開することとし、調査成果についてもまとまり次第積極的に公開を図る。
- (2) 仙台城跡への国内外からの訪問者に対し、様々な手法により、仙台城跡の価値を伝えるよう努める。また、市外に居住している方々に対しても、仙台城跡の周知に努める。
- (3) 学校教育や生涯学習の場において、子どもたちや市民が授業や各種講座等により仙台城跡について学ぶことができ、仙台の歴史についての理解を深めることができるようにする。
- (4) 仙台城と城下町との関係性なども一体的に理解できるよう、見学の動線計画を工夫するなどの取り組みを進める。
- (5) 仙台城跡は、日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」を構成する重要な要素であることを踏まえ、市内外に存在する他の構成要素である文化財と一体的な活用を図る。

2 方法

(1) 学校教育における活用

- ・学校で使用する教材として、仙台城跡の調査成果を活用する。
- ・学校へ出向いて出前授業を行うとともに、子どもたちが仙台城跡を訪れて、遺構を見学する授業を実施するなど、学校教育との連携を図る。
- ・子どもたちが仙台城跡や仙台の歴史について自主的に研修する際に支援する。
- ・大学における歴史学・考古学等の分野での研究や、石垣等の土木建造物の研究などとの連携を図る。

(2) 生涯学習における活用

- ・市民を対象とした講座や調査成果の展示会などを実施する。
- ・仙台城跡の発掘調査成果や各種の調査成果を積極的に公開する。
- ・市民が仙台城に関わる自主的な研究を行う際に支援する。

(3) 地域における活用

- ・市民や観光客が、仙台城跡に親しみ学べるよう、城内の見学ルートに加え城下から城への見学ルートを設定するほか、石垣めぐり等さまざまなイベントを企画し実施する。
- ・観光拠点として、多様な来訪者に対応できる解説、説明を工夫する。
- ・都市公園として、市民、来訪者が歴史的風景の中で憩える環境を整える。
- ・日本遺産のストーリーを、市民や来訪者に分かりやすく伝えるよう努める。
- ・ボランティアガイド等の市民団体による解説やイベントの実施などの活動を推進する。